

5.事業所ガイドブック作成プロジェクト

昨年度から兵庫区の福祉事業所ガイドブックの作成に取り組み、利用者・支援者が見やすく、事業所のアピールにもつながるガイドブックを目指し協議を行ってきました。レイアウトや記載内容を見直し、原稿の校正を経て 200 冊が完成しました。また兵庫区のホームページでも閲覧できるようになっており、対象者に合わせて活用できます。内容の更新時期や作成費用についても話し合い、持続可能な物としてメンバー間で話し合いました。成果物の完成と今後の更新について見通しを立てたことにより、プロジェクトは終了となりました。



6.ハートンマルシェ

障害のある方の手作り品の販路拡大、工賃アップを目指し、毎月第 4 金曜日に兵庫区役所 1 階で販売を行っています。6 月には昨年に続きハーバーランドの「煉瓦倉庫マルシェ」を開催しました。「おかし遊び研究会」に依頼しバルーンアートで子ども達の来客を目指しましたが、遠方の区（須磨、垂水等）からは当日の収支や職員確保等課題も多く継続した参加には至りませんでした。11 月には中央区と合同で参加事業所を募り開催予定でしたが、事業所数が少なく見送りになり、販路として定着は難しい結果となりました。

10 月にはキャナルタウン広場の防災イベントに参加しました。来場者の誘導をスムーズに行えるようパネルを設置したり、商品をアピールするために工夫をこらして出店しました。

今年度は 19 事業所が販売活動に参加し、オリジナル商品の開発にも力を入れていますので、是非お近くにお越しの方はお立ち寄りください。



兵庫区自立支援協議会報

ごころ
ひょう心通信



兵庫区シンボルキャラクター ハートン

令和 7 年 4 月発行
編集・作成 兵庫区自立支援協議会
TEL:078-686-1731 FAX:078-686-1732

兵庫区自立支援協議会について

神戸市では「ともに住み続けたいくなるまちを目指して～障害があってもなくても安心して豊かに暮らせるこうべ」を基本目標として、神戸市自立支援協議会及び各区自立支援協議会を設立しました。

兵庫区自立支援協議会は「障害者自立支援法」（平成 18 年 4 月）の施行を受け、平成 20 年 3 月 14 日に「兵庫区障害者支援ネットワーク」を発展的に組織し設立され、現在に至っています。

障害者が住み慣れた地域で安全・安心に長く生活をするためには、区内の団体・事業者・行政が共に支えあう様々な仕組みづくりを行っていくことが大切と考えています。

兵庫区自立支援協議会は、関係各機関や団体と協力し、社会参加や地域課題に取り組むことで、「やさしさと思いやりのまち 兵庫」にふさわしいまちづくりにおいて、協議会の更なる活性化を図ってまいります。

では、令和 6 年度の兵庫区自立支援協議会の 2 つの部会と 4 つのネットワーク、プロジェクト活動をご紹介します。今年度は 72 団体が構成機関として活動しました。



令和 6 年度 総会（兵庫区役所みなとがわホール）



ボッチャの体験



1.防災を考える部会

7月に菊水地区の地域ケア会議に参加しました。災害時の要援護者支援について現状と課題を話し合い、障害当事者の目線で伝えたいこと、地域の方に知ってほしいこと等意見交換を行いました。「災害時要援護者登録」の必要性や啓発についても学ぶことができ、障害、医療、地域、行政等の機関と幅広く地域連携するための有意義な機会となりました。

12月には阪神淡路大震災を経験し、東日本大震災を現地でボランティア活動をされた松本氏に「災害に関する話を聞く」講演会をしていただきました。部会員からも家庭での備えや心のケア、交通インフラについて質問がでる等防災意識を高めることができ、障害の有無に関わらず、地域で協力し合える防災の在り方についても話し合われました。

区内の基幹福祉避難所（花みさき）では障害当事者（聴覚障害）が避難訓練に参加しました。高齢者施設では障害者の受け入れについて知識や経験がない事業所が多く、積極的に参加することで障害者理解につながり、相互理解につながりました。



2.相談支援部会



令和6年4月から合理的配慮が義務化されたことを受け、「計画相談のつどい」では事業所ネットワークと合同で「合理的配慮について勉強会」を行いました。「合理的配慮」か「サービス上の配慮」か整理して考える必要があり、それぞれの現場で対応に困ったケースについてグループワークで意見交換、共有を行いました。また、新設の加算を取得するための体制確保、事務手続き等についても確認し、各事業所が安定した事業運営を目指しました。

3区合同（兵庫区、須磨区、長田区）部会では令和6年度の報酬改定について勉強会を行い、制度理解を深める機会となりました。その後、各区でテーマ（兵庫区：地域連携、須磨区：高い専門性、長田区：意思決定支援）を決めて発表したり、積極的に参加者が部会運営に関り活発な意見交換ができました。

12月には介護保険へのサービス移行をする方が増えている現状を踏まえ、あんしんすこやかセンターと相談支援専門員との勉強会を行いました。専門用語の違いや65歳到達の円滑な引き継ぎ等課題を共有しました。



3.事業所ネットワーク



事業所での困りごとについて意見交換を行いました。（例：盗癖のある方の体験利用を受けることになったが、事業所として初めてで不安があるケース）対応したことがある事業所から対策や情報提供をしてもらい、事業所として「支援出来ること、出来ないこと」を本人に伝え誠意のある対応を心がけました。7月は相談支援部会と合同で「合理的配慮の勉強会」を行いました。「前例がありません」「特別扱いできません」「もし何かあったら・・・」等事業所としても対応に苦慮する場面もあり、事業運営をする上で多くの学びを得ることができました。

10.11月には事業所での利用者支援における困りごとについて事例検討会を行いました。利用者支援だけでなく、職員育成についても他事業所の取り組みを知る機会となりました。管理者と現場のギャップや専門職としての役割・配慮、またセルフプランの方への支援をどこまで事業所が担うのか等多岐にわたり意見交換を行うことで、事業所間の横のつながりにもなりました。



4.子育て支援ネットワークプロジェクト

子どもに特化した地域課題を話したい、との思いから昨年度発足し2年目を迎えました。今年度は事例検討会を中心に意見交換会を行い、情報発信・共有の場として取り組みました。1回目は各事業所ごとに成功・失敗事例を持ち寄り、「こんな時どうしていますか？どうしたらいいと思いますか？」を話し合いました。2回目はグループで話し合うテーマを3つの中から選びました。

- ① 「本人（児）に課題があるが、家族は困り感がないケース」
- ② 「障害受容が出来ていない本人。問題が生じている事を伝えようと対話しても解決に至らず、自身の考えを変えることが難しいケース」
- ③ 「事業所、学校等支援者の点在により、情報共有・連携が難しく支援にバラつきが懸念されるケース」

事例検討会を通してあがった課題を元に解決に向けた具体策、アイデアについて協議し、次年度の活動に活かしていきたいと思っています。

